

造影剤副作用発症リスクが高い方の検査について

ヨード造影剤ならびにガドリニウム造影剤の投与により、急性副作用を生ずる危険因子をもつ下記①、②に該当する患者様は、造影剤の使用が原則禁忌となっており、検査をお受けできません。

- ① 過去に造影剤に対する中程度・重度（※別紙参照）の急性副作用の既往がある方
- ② 気管支喘息で現在、喘息症状のある方

一方、

- ③ 過去の造影剤に対する軽度（※別紙参照）の副作用の既往の方
- ④ 気管支喘息の治療中で症状が消失している方、あるいは治療を終了して5年以内の方

については診断治療上造影検査が必要な場合には、ステロイド剤の前投薬を行った上で検査を施行することといたしました。

当院でのステロイドの前投薬
プレドニン錠 5 mg 6 錠(30 mg)を、検査前日の就寝前と検査の 2 時間前に内服

前投薬なしでは造影検査は出来ません。上記③、④に該当する場合は予約の際に必ずお申し出ください。

また、検査依頼書にチェック項目がございますのでご記入をお願いいたします。

参考 1 : 日本放射線医学学会から発表された提言 (抜粋)

http://www.radiology.jp/member_info/safty/20170629.html

ヨード造影剤ならびにガドリニウム造影剤の急性副作用発症の危険性低減を目的としたステロイド前投薬に関する提言

2017年6月

日本医学放射線学会医療安全管理委員会
造影剤の安全性に関する小委員会

ヨード造影剤ならびにガドリニウム造影剤の投与により、急性副作用を生ずることがあります。その症状は、軽度の蕁麻疹や悪心から、心肺停止に至るものまでさまざまです。その発生を確実に予知・予防する方法は存在しませんが、危険因子は知られており、1)造影剤に対する中等度もしくは重度の急性副作用の既往、2)気管支喘息、3)治療を要するアレルギー疾患、等とされています。しかし、これらが存在しても直ちに造影剤の使用が禁忌となるわけではなく、リスク・ベネフィットを事例毎に勘案して投与の可否を判断する必要があります。

急性副作用発生の危険性を軽減できるかもしれない方法として、ステロイド前投薬が試みられることがあります。その有効性について明確なエビデンスはありませんが、急性副作用の少なくとも一部がアレルギーあるいは過敏症によると推定されているため、試みる価値があると考えられています。

前投薬としてのステロイド投与方法としては、従来、造影剤投与直前に静注することが一般的でしたが、現在ではステロイドの抗アレルギー作用を十分に発揮させるためには、理想的には造影剤投与の6時間以上前に投与することが望ましいとされています。

当委員会は、急性副作用発生の危険性軽減のためにステロイド前投与を行う場合には、緊急時を除き造影剤投与直前ではなく、充分前に行うのが望ましいと考えます。

参考 2 : 造影剤副作用の重症度とその症状

重症度	症状	造影検査の可否
軽度	嘔吐、味覚異常、発汗、咳嗽、掻痒感 皮疹 (局所性)、蕁麻疹 (局所性)、鼻閉 頭痛、めまい	プレドニン投与で 造影可能
中等度	皮疹 (全身性)、蕁麻疹 (全身性) 気管支痙攣、喘鳴、呼吸困難	造影検査できません
重度	ショック、アナフィラキシー症状 皮膚粘膜眼症候群、腎不全、喉頭浮腫、意識障害 痙攣、肺水腫、不整脈、心肺停止	造影検査できません

気管支喘息の治療中、あるいは治療をしたことがある方へ

この度、造影CT検査、造影MRI検査を受けられることとなりましたが、安全に検査を受けていただくために、検査前にアレルギー症状の予防薬を服用していただきます。

これは、気管支喘息患者さんに造影剤を使用した場合に、喘息発作、蕁麻疹などのアレルギー反応が多くみられることによるものです。

(喘息患者さんは、正常の方とくらべるとアレルギー症状の出る確率は約5倍高いといわれております)

アレルギーの予防薬として、プレドニンというお薬30mg(5mg錠6錠)を検査前日の就寝前と検査当日の2時間前に服用していただくこととなります。



前日 寝る前と

当日 検査2時間前に内服

このお薬の副作用として、不眠症状がでることがあります。また、血糖値が高くなったり、血圧が上がるがありますが、一時的なもので検査終了後は元に回復します。

血糖値や血圧が高く不安な方は担当の先生にお申し出ください。

なお、アレルギー予防薬の処方札幌道都病院でも可能ですので、ご希望の方は検査2日前までに札幌道都病院を受診ください。その際には、初診料、処方せん料等をお支払いいただくこととなりますのでご了承ください。

安全に検査を行うため、何卒ご理解ご協力のほどお願い申し上げます。

(前日の予防薬の内服をお忘れになった場合には検査は施行できません。その場合は来院前に札幌道都病院 医療連携室 011-731-5800にご連絡ください。)

札幌道都病院

☎011-731-5800 (医療連携室)

以前に造影剤のアレルギーが出たことがある方へ

この度、造影CT検査、造影MRI検査を受けられることとなりましたが、安全に検査を受けていただくために、検査前にアレルギー症状の予防薬を服用していただきます。

これは、以前に造影剤アレルギーがでたことがある人の場合、造影剤使用時に喘息発作、蕁麻疹などのアレルギー反応が多くみられることによるものです。

(造影剤アレルギーのある人は、正常の方とくらべるとアレルギー症状の出る確率は約5倍高いといわれております)

アレルギーの予防薬として、プレドニンというお薬30mg(5mg錠6錠)を検査前日の就寝前と検査当日の2時間前に服用していただくこととなります。



前日 寝る前と

当日 検査2時間前に内服

このお薬の副作用として、不眠症状がでることがあります。また、血糖値が高くなったり、血圧が上がるがありますが、一時的なもので検査終了後は元に回復します。

血糖値や血圧が高く不安な方は担当の先生にお申し出ください。

なお、アレルギー予防薬の処方札幌道都病院でも可能ですので、ご希望の方は検査2日前までに札幌道都病院を受診ください。その際には、初診料、処方せん料等をお支払いいただくこととなりますのでご了承ください。

安全に検査を行うため、何卒ご理解ご協力のほどお願い申し上げます。

(前日の予防薬の内服をお忘れになった場合には検査は施行できません。その場合は来院前に札幌道都病院 医療連携室 011-731-5800にご連絡ください。)

札幌道都病院

☎011-731-5800 (医療連携室)